

すまいるたん



第214号
平成24年

5月13日

はい！東京新聞です

取材現場のつちやまき



「ベタ記事」の話をしましょう。
大型連休明けの五月八日の朝刊したま
ち版に、こんな記事が載りました。

「荒川区長選は十一月十一日投票」
たった八行の小さな記事なので、覚え
ていない方もいらっしゃるでしょう。

新聞は、紙面を横十五段に区切って、
記事をレイアウトしています。記事には
見出しが付きませんが、縦の見出しは、三
段の長さなら「三段見出し」と呼びます。
一段見出しが「ベタ見出し」。その見
出しの記事が「ベタ記事」です。つまり、
いちばん扱いが小さい記事のことです。
かつて新聞を鉛の活字で作っていたころ、
文字と文字、行と行の間をあけず、ぴつ
たり組むことを「べた組み」と呼んでい
たのが語源です。コンピュータで新聞
を作る今でも使う言葉です。

で、先ほどの記事です。
七日に荒川区選挙管理委員会が開かれ、
荒川区長選の日程が決まったという記事
です。味も素っ気もない単なるお知らせ
記事ですが、こんな記事でも、掲載する
際には、結果として記事に書かないこと
も含め、いろいろなることを確認取材して
書いているんです。

まず、決めるにあたり、荒川区選管で異
論・反論がなかったかどうかです。
今回は特に議論もなく決まったのですが、
まれに意見が分かれます。

最近の例は、三年前の東京都議会議員選
挙の日程です。

東京都選挙管理委員会は、この年の七月
十二日投票票で決めようとしたが、委
員四人のうち一人が、「七月五日投票票」
を主張しました。話し合いはまとまらず、
「挙手」による多数決で「七月十二日」で
落ち着きました。都選管では過去に例がな
い珍しいことだったそうです。

当時、国会では、いつ衆院解散・総選挙
があってもいい情勢でした。総選挙をすれ
ば民主党の勝利、政権交代がおこる可能性
が高まっていました（事実、そうなりまし
た）。

当然、当時の都議会の民主党は、国の政
治の勢いを、できるだけ都議選に生かした
い。そのためには衆院選となるべく近い日
できれば同日選で行いたいと考えたでしょ
う。逆に自民や公明などは、国の政治の影
響をなるべく少なくしたい、そのためには、
衆院選と都議選をなるべく引き離したい。
きつと、こう考えたと思います。

この思惑の違いで、四人の委員の間で意
見が分かれたのです。「七月五日」を主張
したのは、民主党が推薦して就任した委員
でした。

こういうこともあるので、選挙管理委員
会が決めたことを記事にする時は、その理
由や経緯も大切なのです。

また、八行の記事の最後に「立候補を表
明している人はいない」とありますが、こ
れも大切な情報で、いくつかの取材をした
上で書いています。

実は、小さい記事には、大切な情報がた
くさん詰まっていることが多いんです、し
たまち版の下の方に載っている、「情報コー
ナー」という行事のお知らせ記事なんて、
その典型でしょう。何日の何時にどこで何
が行われるのか、問い合わせの電話番号は。
どれも必要で、間違えれば多くの人に大変
なご迷惑をかけます。

二十年ほど前の東京新聞編集局長が書い
た、「ベタ記事恐るべし」という本があり
ます。私は、この本の題名が、記者を続け
るほど、強く実感しています。

小さな記事、簡単な内容の記事など、つ
い適当にちやっちやっとな片付けてしまおう
と思ってしまうようですが、その油断がミ
スや誤解を生むのです。

これから、十八〜二十日には浅草三社祭、
直後の二十二日には、いよいよ東京スカイ
ツリーが開業します。大きなニュースが続
きますが、こんな時こそ、小さな記事を大
切にするよう心がけ、気を引き締めたいと
思っています。

（東京新聞したまち支局長 榎本哲也）